

	児童の実態	改善プラン	改善プランの評価方法
国語	<p>①基礎的な漢字や言葉の知識・技能を身に付ける必要がある。</p> <p>②物語文や説明文について、作者・筆者の主題や主張に対する感想をもつことはできているが、他者へ伝えようとする意欲を高める必要がある。</p>	<p>①デジタルドリルを導入し、学習者用端末を用いた個別最適な学びを実現する。</p> <p>②ロイロノートを活用し、感想文を共有することにより、発言することが苦手な児童でも自分の考えを伝え合えるようにする。</p>	<p>①自主学習の取り組みや、単元テストの点数により、定着度を評価する。</p> <p>②ロイロノートの記述の変化から、他者へ伝えようとする意欲が高まっているか、考えが深まっているかを評価する。</p>
算数	<p>①3学級4展開で習熟度別指導をしている。学習内容の定着度には個人差はあるが、粘り強く学習に取り組む児童が多い。</p> <p>②計算の仕方は理解しているが、文章問題になるとどのように解答するのか分からなくなる傾向がある。文章問題の意味理解を深め、活用能力を高める必要がある。</p>	<p>①習熟度に合わせた指導を行う。補充コースは、適用問題に取り組む時間を多めに確保し、学習内容の定着を図る活動を継続的に行っていく。</p> <p>②文章問題には図や式等を用いて個人で考える時間を設け、ペアやグループでそれぞれの考えを説明し合う活動を行い、学習内容を活用する力を高めていく。</p>	<p>①単元テストの状況を学年で共有し、学習内容の理解を確認する。</p> <p>②各自のノートや授業中の様子をみて、文章問題の理解度を把握し、評価する。</p>
社会	<p>①全体的に学習に対する意欲が高い。特に資料から読み取ったり調べたりする活動に、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>②資料から読み取ったことを基に、分かったことを活用して課題を解決する力を身に付ける必要がある。</p>	<p>①発問や資料提示の仕方を工夫する。ロイロノートを活用し、資料の提示を明確にし、調べる活動をさらに意欲的にできるようにする。</p> <p>②ロイロノートを活用し、資料から読み取ったことを基に、自分の考えを文章でまとめ、全体で共有することで、課題解決が苦手な児童も理解を深められるようにする。</p>	<p>①児童がノートやロイロノートに書いた内容や授業における発言、授業後の感想から評価する。</p> <p>②ロイロノートの記述内容やまとめ方から、どの程度理解できているかを評価する。</p>
理科	<p>①実験結果から考察する力を身に付ける必要がある。</p>	<p>①実験結果から考えたことを自分なりにまとめる時間や話合いの時間を十分に設定する。結果を正確に記録し、既習事項や生活経験と結び付けて考察を書くよう促す。必要に応じて書き出しの言葉</p>	<p>①ノートの記述や児童の発言から評価する。</p>

	<p>②学んだことを生活経験と結び付け、これからの社会で貢献できることを考える力を身に付ける必要がある。</p>	<p>を提示する。</p> <p>②単元の最後に学習内容に関連した環境問題等を調べる時間を設け、それに対する自分の考えを書く活動（時間）を設定する。</p>	<p>②ノートの記述や児童の発言から評価する。</p>
家庭	<p>①調理実習などの活動に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>②裁縫や調理の実技は、経験の差が大きく、技能面に個人差が見られる。</p> <p>③自分の生活と関連付けて考えたり、学んだことを実生活に生かしたりする意欲をより高める必要がある。</p>	<p>①実技の時間を十分に確保できるように、事前指導や説明の時間を短縮する。</p> <p>②実習のときには、<u>作業手順を明確に</u>することで、児童が見通しをもって学習できるようにする。ボランティアの依頼をして、個別に支援する体制を整える。</p> <p>③<u>家庭での実践の機会</u>を設ける。また、交流活動を活発にすることで、友達の実践から学べるようにする。</p>	<p>①児童の活動への取り組み方や作品の完成度、授業後の感想から評価する。</p> <p>②授業支援ボランティアの感想や管理職による助言を生かし、改善を図る。</p> <p>③家庭科ノートの記述や発言から、児童の様子を見取る。</p>
体育	<p>①自分の学習課題を見つけたら選んだりできる力を身に付ける必要がある。</p> <p>②運動に対する意欲を高める必要がある。</p>	<p>①学習者用端末を活用し、自分の動きを撮影したり、参考動画を視聴したりできるようにする。</p> <p>②運動遊びなどの<u>易しい運動</u>を授業の中に取り入れ、運動が苦手な児童でも体を動かすことの喜びを味わえるようにする。</p>	<p>①学習者用端末を活用した際の児童の動きの変化を観察し、効果的であったかを評価する。</p> <p>②授業中の児童の様子を観察したり、振り返りの記述を比べたりすることにより評価する。</p>
道徳	<p>①互いの考えを交流しながら、自分の考えを深めていく必要がある。</p> <p>②教材を通して感じた道徳的価値を、自分自身に置き換えて考える力を身に付ける必要がある。</p>	<p>①相手の考えをよく聞き、さらに自分の考えをもう一度見直す活動を取り入れていく。</p> <p>②自分自身の経験を振り返って<u>考える時間を十分に確保</u>する。</p>	<p>①週案等を利用して、指導について自己評価し、管理職の助言を生かして改善を図る。</p> <p>②ワークシートに書かれている内容や授業中の発言を見て評価する。</p>
外国語	<p>① 語彙や表現を習得し、コミュニケーションの中で活用している。</p> <p>② 自分の考えをもてなかったり、コミュニケーションに困惑したりする場合があります。一人一人に寄り</p>	<p>①授業の中で、練習量を確保し、言語活動を中心に授業を組み立てるとともに、スモールトークを行い、会話の往復に努める。</p> <p>②国内外の様々な人々の生き方や、考え方を提示し、豊かな考えを育む。教科書の映像やリス</p>	<p>①授業中に、ワークシートを確認する。</p> <p>②單元ごとのQ&Aテスト、振り返りシートの記述やノートの確認を行う。</p>

	<p>添った指導が必要である。</p> <p>③外国語の背景にある文化に対する関心が高く、理解を深めている。コミュニケーションの観点を意識し、相手とのコミュニケーションが続くように指導する必要がある。</p>	<p>ニング教材を活用し、学んだ語彙を手掛かりに推測していく過程を実感できるようにする。</p> <p>③授業中に、英語でのコミュニケーションを重ね、会話のキャッチボールの練習を繰り返し行う。また、実際に海外の人との交流を設定するなどし、リアルな状況の中でコミュニケーションを行い、文化への理解を深める。</p>	<p>③スピーチや、学期ごとのパフォーマンステスト（コミュニケーションテスト）を実施し、達成度を把握する。</p>
総合的な学習	<p>①設定した課題に対して、多様な方法から選択し、判断し、実行する経験を増やす必要がある。</p> <p>②学習を終え、次に生かしたいことや、自身の変容等をメタ認知する力を高める。</p>	<p>①左記のような機会に複数回出会えるように、単元のデザインを工夫する。</p> <p>②振り返りの時間を十分に確保する。</p>	<p>①年度当初に計画した単元を、学期末に振り返り、調整を行う。</p> <p>②各児童の振り返りの内容の質を比較する。</p>
特別活動	<p>①学級会では、合意形成を図るいくつかのステップの理解を深める必要がある。</p> <p>②学校行事の中で、主体性をより高める必要がある。</p>	<p>①学級会の計画を丁寧に行い、司会進行の力を育てる。</p> <p>②自ら考え、実行する機会を増やす。実行委員や係を設け、児童主体の取組になるようにする。</p>	<p>①児童の活動の様子の変容を見取り、改善に生かす。</p> <p>②取組の様子を観察したり、児童に振り返りを書かせたりして評価していく。</p>
音楽	<p>①意欲的に取り組む児童が多く、落ち着いて授業に参加している。</p> <p>②器楽演奏を好む児童が多い。友達と意欲的に取り組むことができる。</p> <p>③鑑賞の授業では、聴き取ったことや感じ取ったことを積極的に発言する児童が多く、理解を深めている。</p>	<p>①さらに意欲が高まるよう、<u>発表の場を多く設定したり、授業展開を工夫したり</u>する。</p> <p>②児童の様子を見ながら、自ら選べる課題を提示し、一人一人に達成感を味わえるようにする。音を合わせて演奏することの楽しさを味わうために、発表の機会を設定する。</p> <p>③更に理解が深まるよう、互いの考えを交流する時間を設けるなど授業展開を更に工夫する。</p>	<p>①授業の様子、発表の様子で評価する。</p> <p>②一人で演奏する時間を設け、タンギングや運指が正しくできているか丁寧に確認する。個別指導で評価する。</p> <p>③授業の様子、発表の様子で評価する。個別指導の際の様子や振り返りのプリント等でも評価する。</p>
図工	<p>①課題理解力が高まり、それに合わせて想像力や表現力も豊かになってきている。</p>	<p>①時代的背景や学年の発達段階に合わせた課題を設定するとともに、児童はその課題解決による作</p>	<p>① アイディアカードでの発想や、計画で判断する。作品や児童の振り返りカード、第</p>

	<p>②自分の作品への客観的見方が高まることで、学習意欲に影響が出ている。</p> <p>③自分が社会や世界とどのように関わりながら、より良い人生を送るか考え始めている。</p>	<p>品制作を行うことで表現の喜びを味わえるようにする。</p> <p>②自らを見つめ、理解し、自分が目指す成長と図工との関わりを課題解決による表現を通して理解できるようにする。</p> <p>③自分と友達、自分と社会などとの関わりについて考える場を与え、自らの力で答えを導き出して、自分の行動に結び付けられるようにする。</p>	<p>三者の感想から評価する。</p> <p>②作品を作る過程で、児童の取り組み様子や、完成作品で評価する。</p> <p>③児童の感想文に、できればや楽しさ、難しさを数値化して書き、自己評価を参考にする。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------